

証券経済学会  
2023年度全国大会

報告資料

# 「金融不安再燃と米銀の構造問題」

立命館大学 経済学部

新形 敦

# 問題意識

## ■ 2023年春における米地銀の連続破綻

- 個別行の問題 vs 構造問題

## ■ 米銀が直面する問題

- 預貸率の低下
- 非金利収入比率の低下
- 預金調達コストの上昇

## ■ 問題の背景

- 循環要因 vs 構造要因

(注)本報告における「米銀」は、米連邦預金保険公社（FDIC: Federal Deposit Insurance Corporation）加盟の商業銀行と貯蓄金融機関の合計。

## 破綻3行の概要

# 3行の概要

## ■ ビジネスモデルの特徴

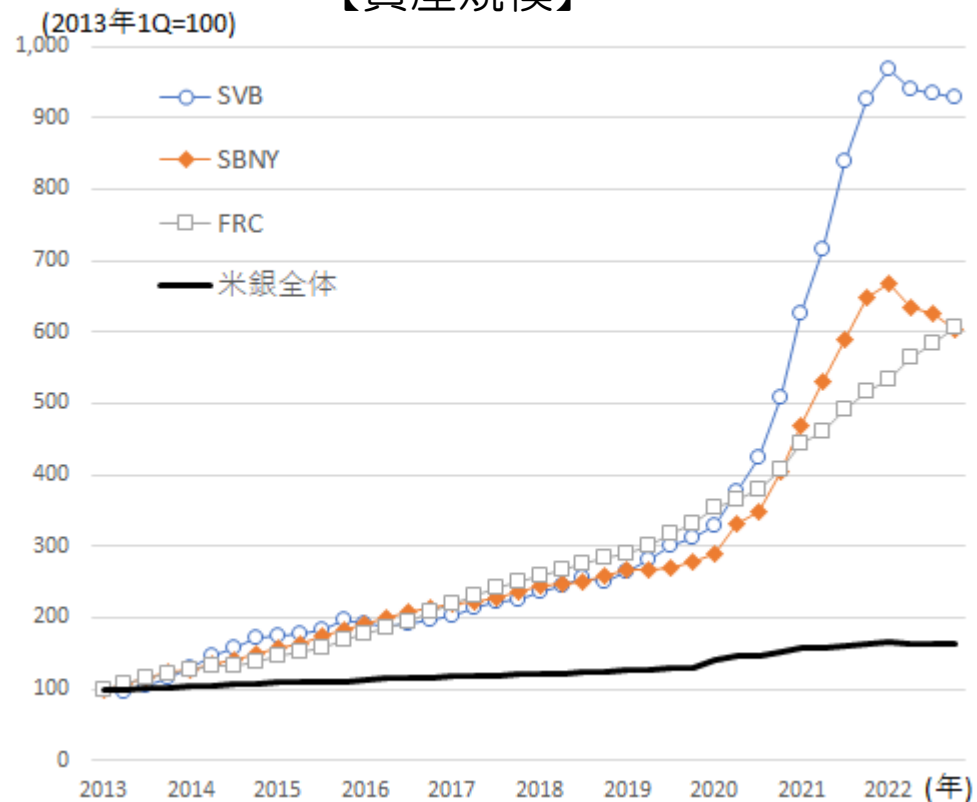
- Silicon Valley Bank (SVB) : 証券保有
- Signature Bank (SBNY) : ハイリスク貸出  
(商業用不動産、仮想通貨関連)
- First Republic (FRC) : ハイリスク貸出  
(商業用不動産、ジャンボ住宅ローン)

## ■ 破綻の要因

- 資産（保有証券、貸出）の毀損（懸念）
- 預金の大量流出（取り付け）

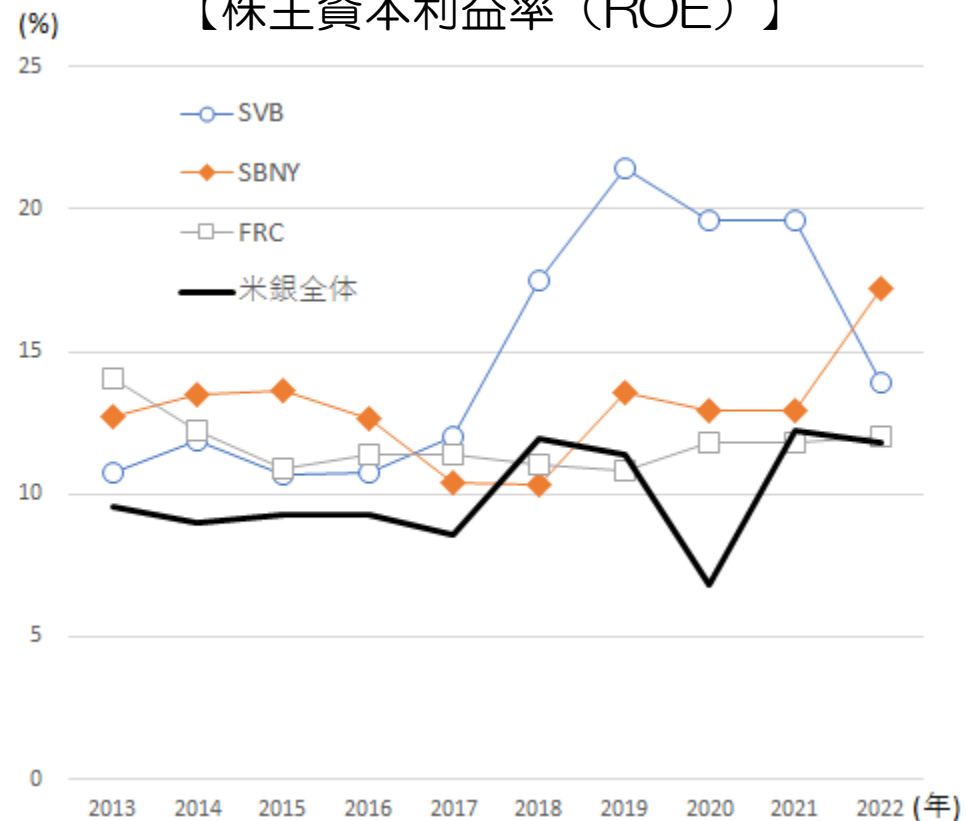
# 3行の資産規模、収益性

【資産規模】



(資料) 各行開示資料、FDIC, “Quarterly Banking Profile”より作成

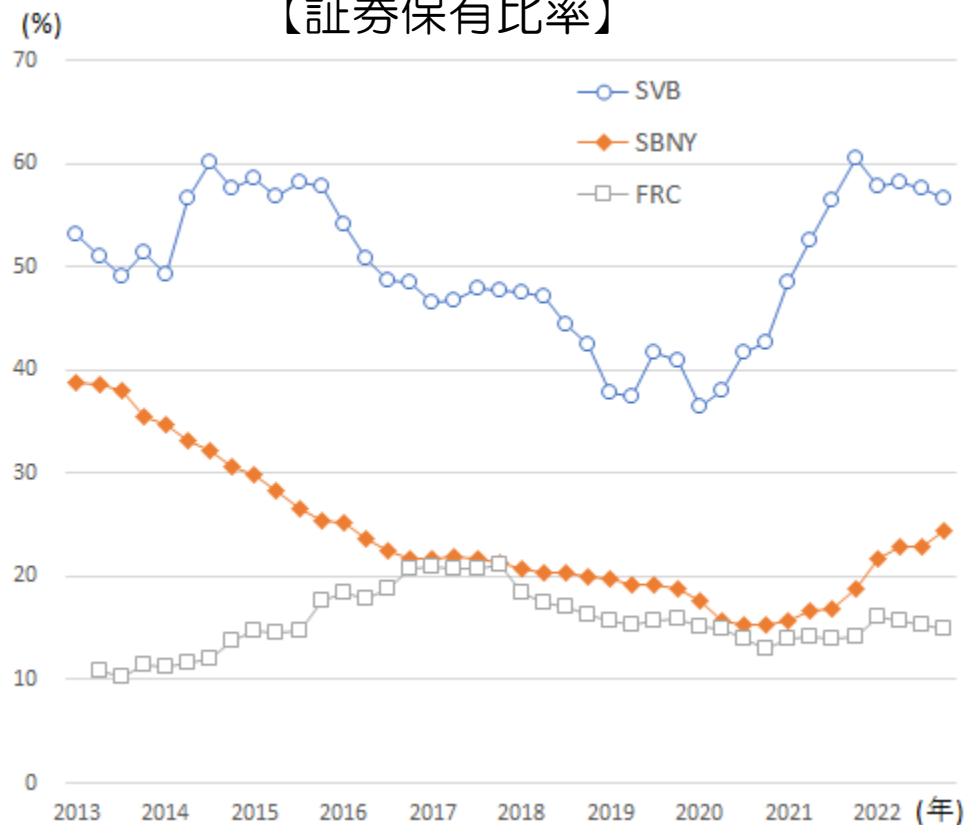
【株主資本利益率 (ROE)】



(注) 年平均値。  
(資料) 各行開示資料、FDIC, “Historical Trends”より作成

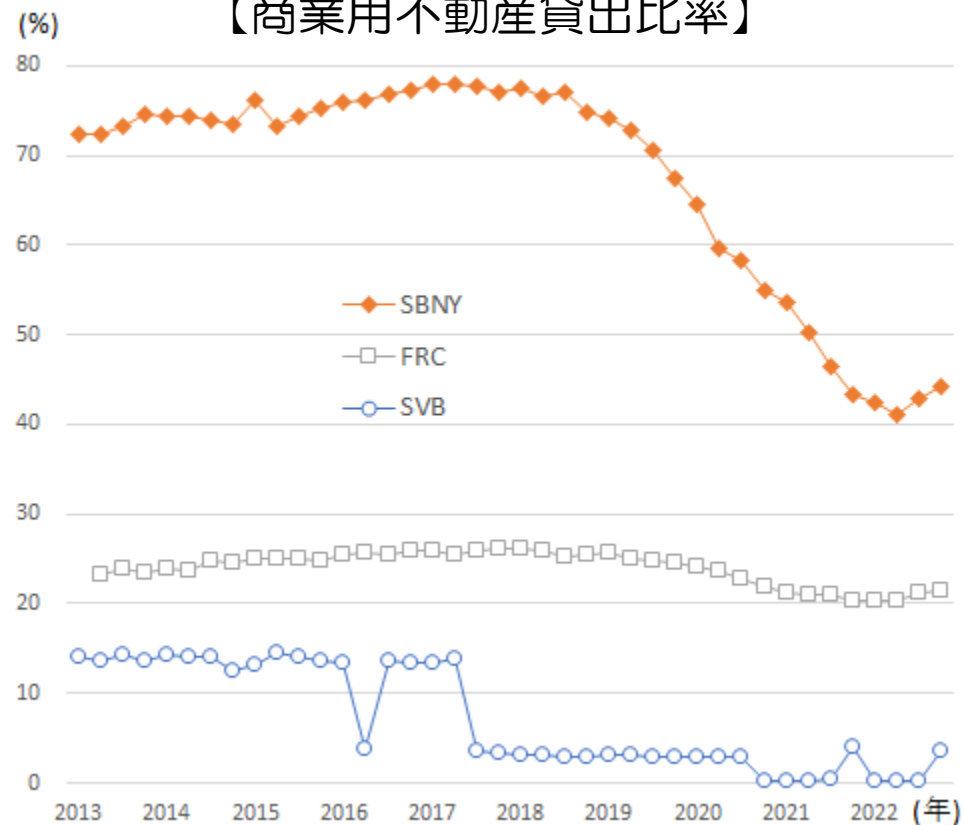
# 3行の証券保有、ハイリスク貸出

【証券保有比率】



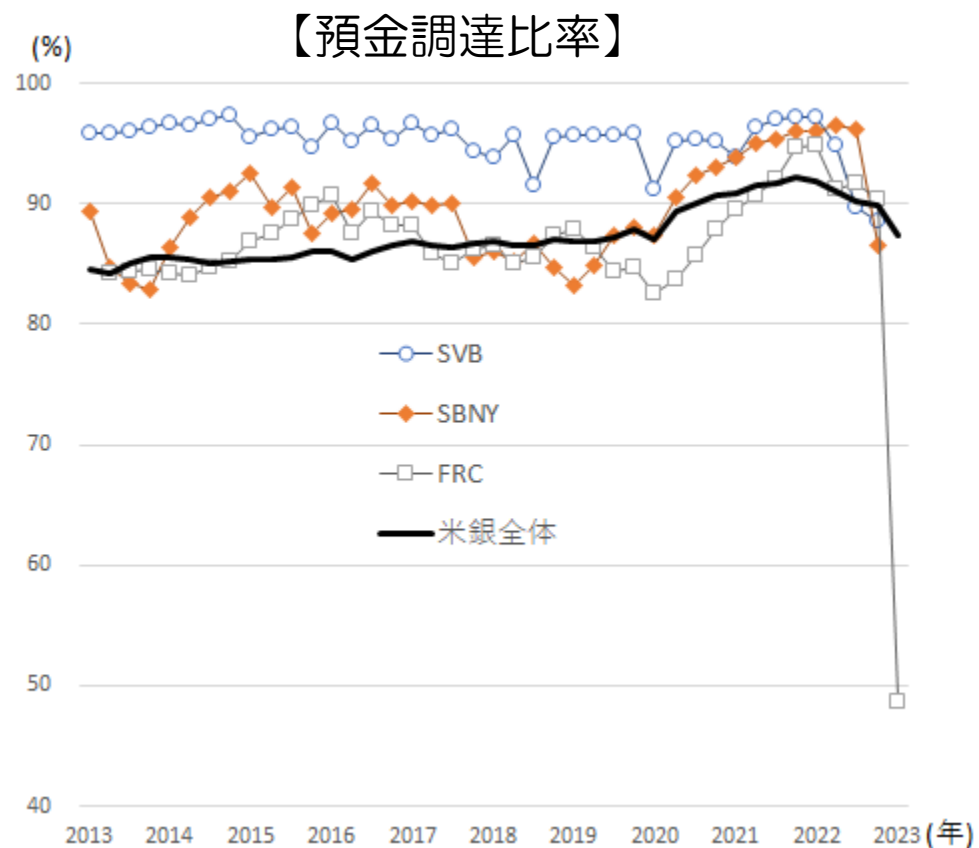
(資料) 各行開示資料より作成

【商業用不動産貸出比率】



(注) 商業用不動産貸出/貸出全体 (%)  
(資料) 各行開示資料より作成

# 3行の預金調達、非付保預金



(注) 預金調達/全負債 (%)  
 (資料) 各行開示資料より作成

【非付保預金比率】

銀行名	非付保預金比率(%)
Silicon Valley Bank	93.8
First Republic	89.3
Signature	67.4
JPMorgan Chase	52.0
Bank of America	46.1
Citi	73.7
Wells Fargo	45.5
U.S. Bank	51.4

(注1) 2022年末時点。  
 (注2) 預金保険対象外の預金/全預金 (%)  
 (資料) FFIEC, "Call Report"より作成

# 米銀の状況



# 米銀が直面する問題

## ■ 預貸率の低下

- 2000年代初頭をピークに低下傾向

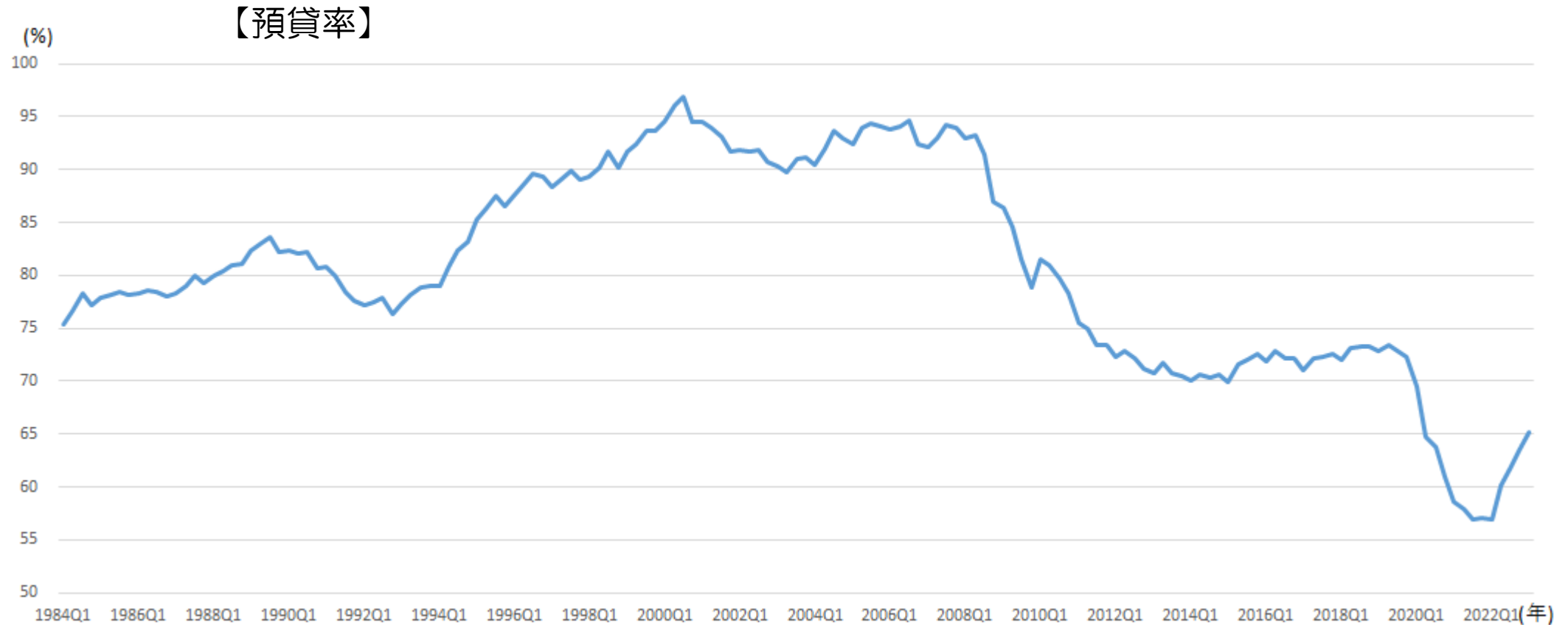
## ■ 非金利収入比率の低下

- 2000年代半ばをピークに低下傾向

## ■ 預金調達コストの上昇

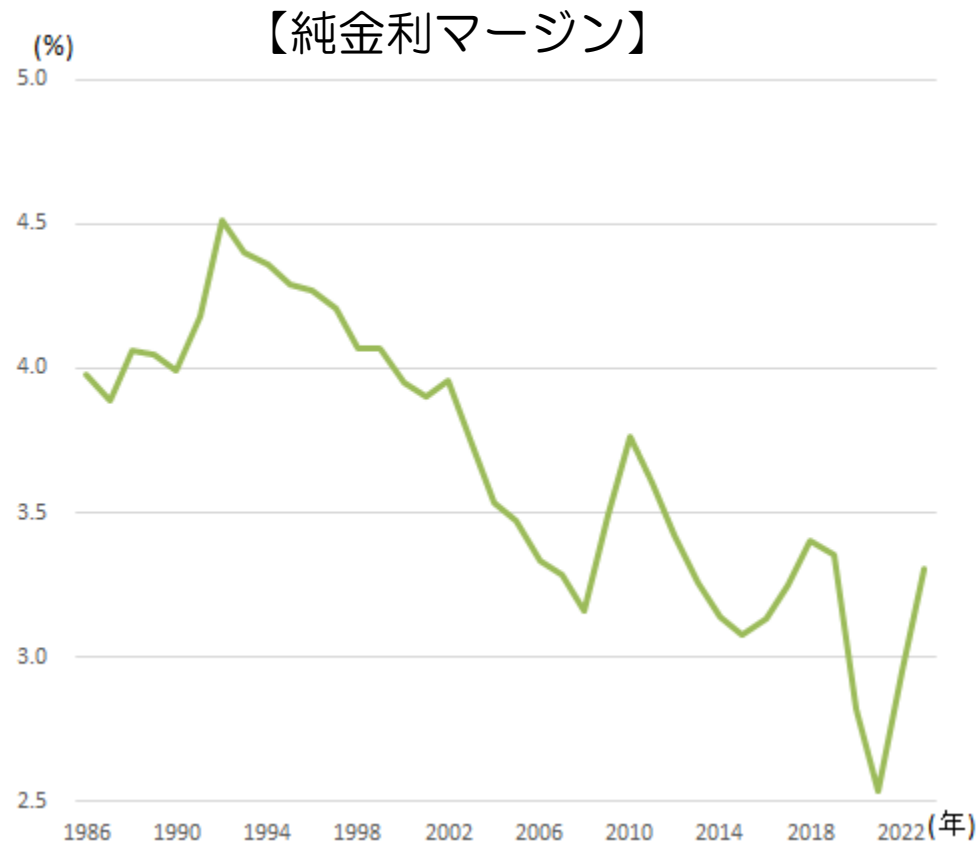
- 2014年を底に上昇傾向

# 預貸率の低下

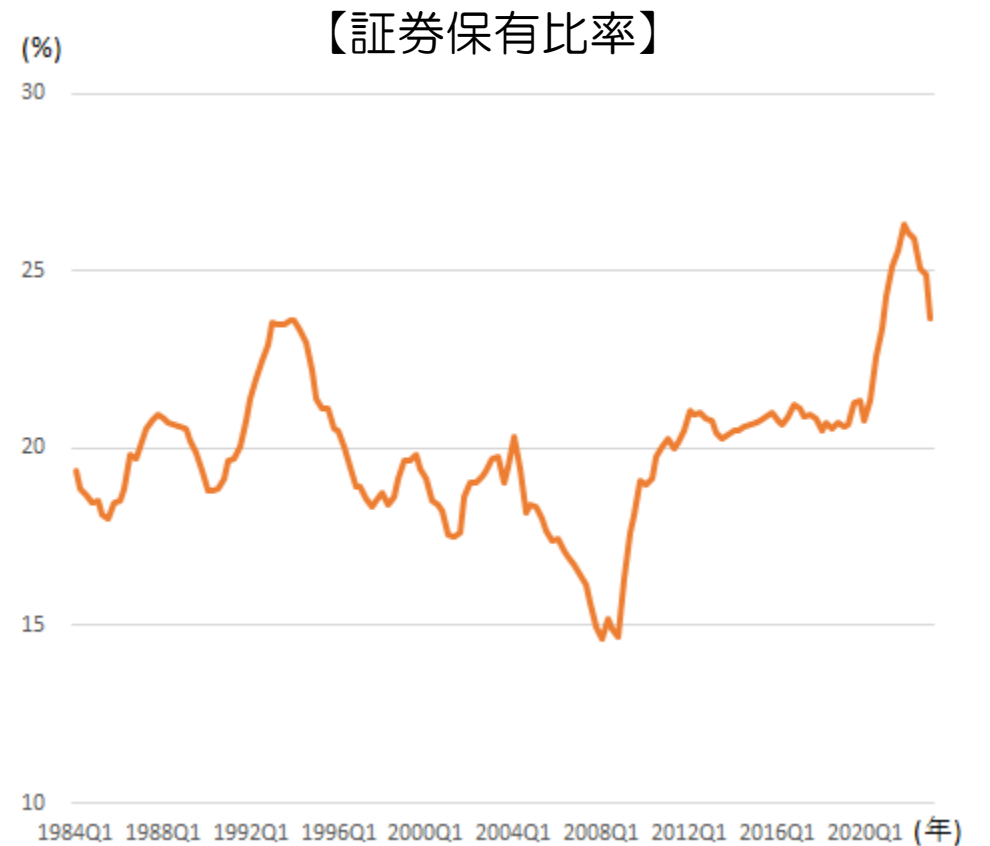


(注) 全貸出/全預金 (%)  
(資料) FDIC, "Quarterly Banking Profile" より作成

# 純金利マージン、証券保有比率



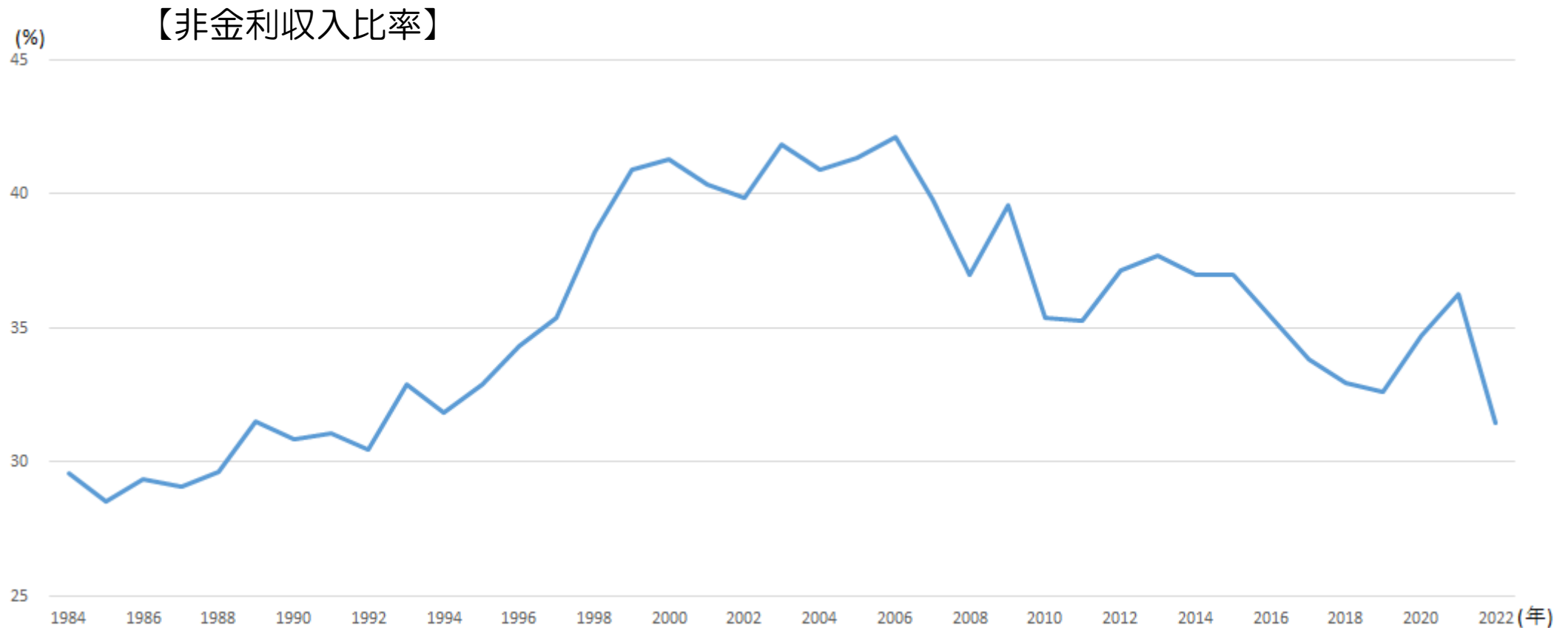
(資料) FDIC, “Historical Trends” より作成



(注) 保有証券/全資産 (%)

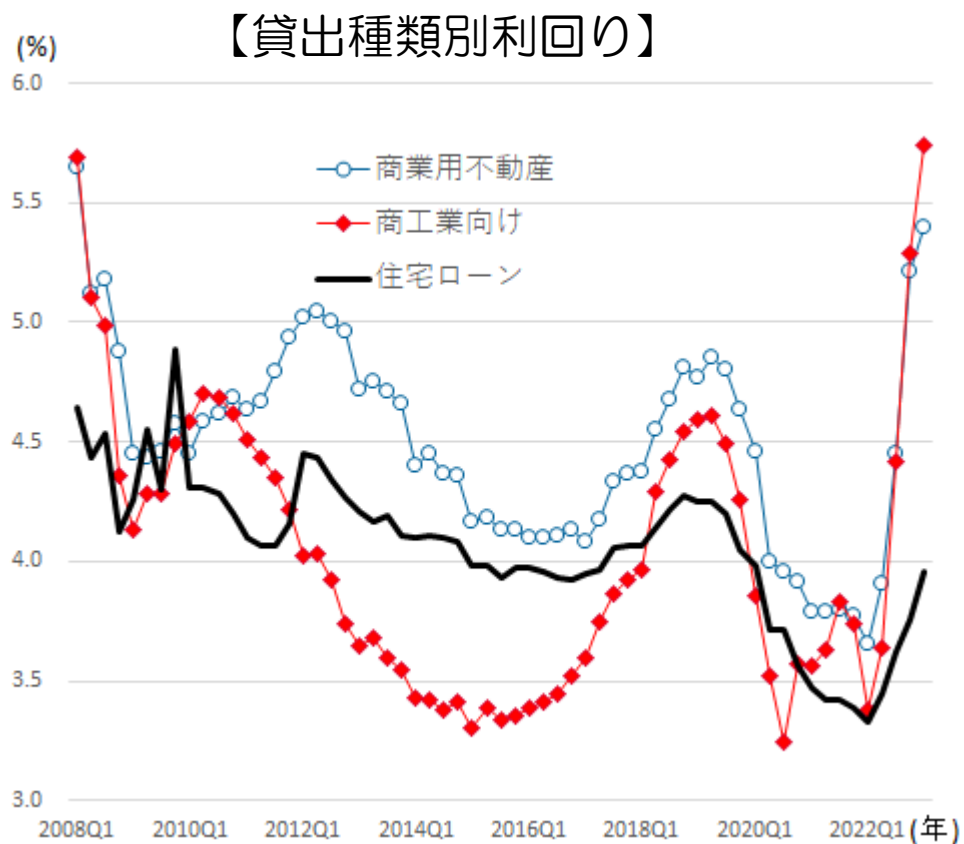
(資料) 各行開示資料、FDIC, “Quarterly Banking Profile” より作成

# 非金利収入比率の低下

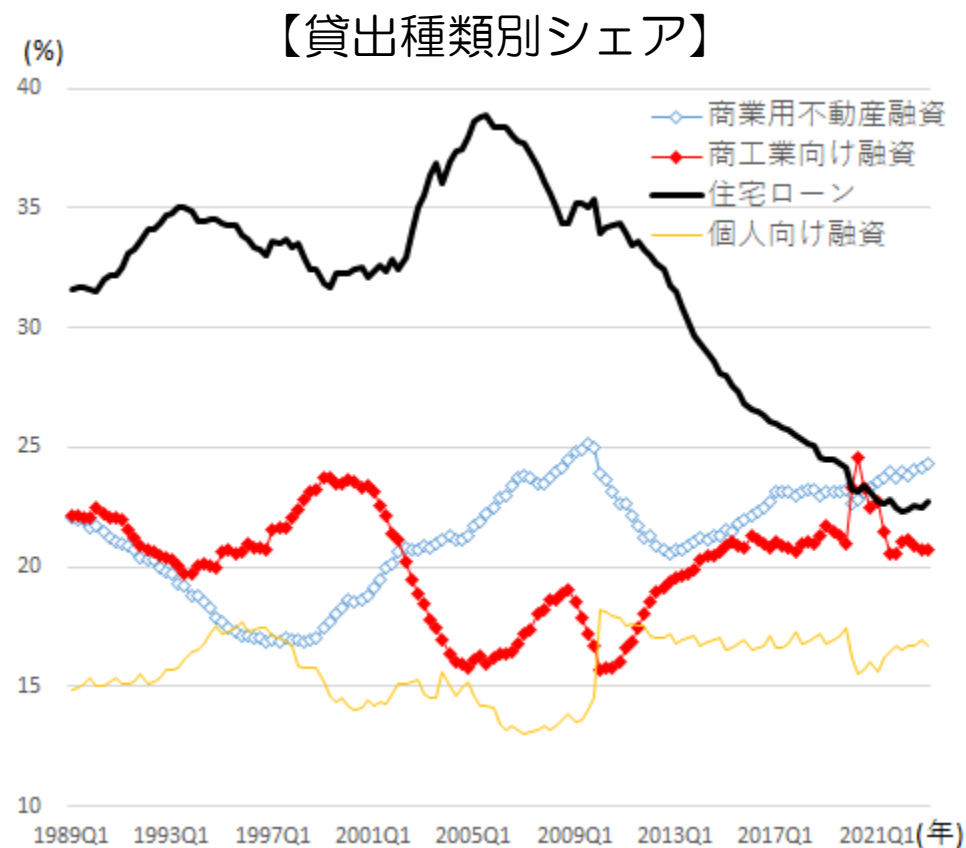


(注) 非金利収入 / (非金利収入 + 純金利収入) (%)  
(資料) FDIC, "Quarterly Banking Profile" より作成

# 貸出利回り、貸出シェア



(資料) FDIC, "Quarterly Banking Profile" より作成

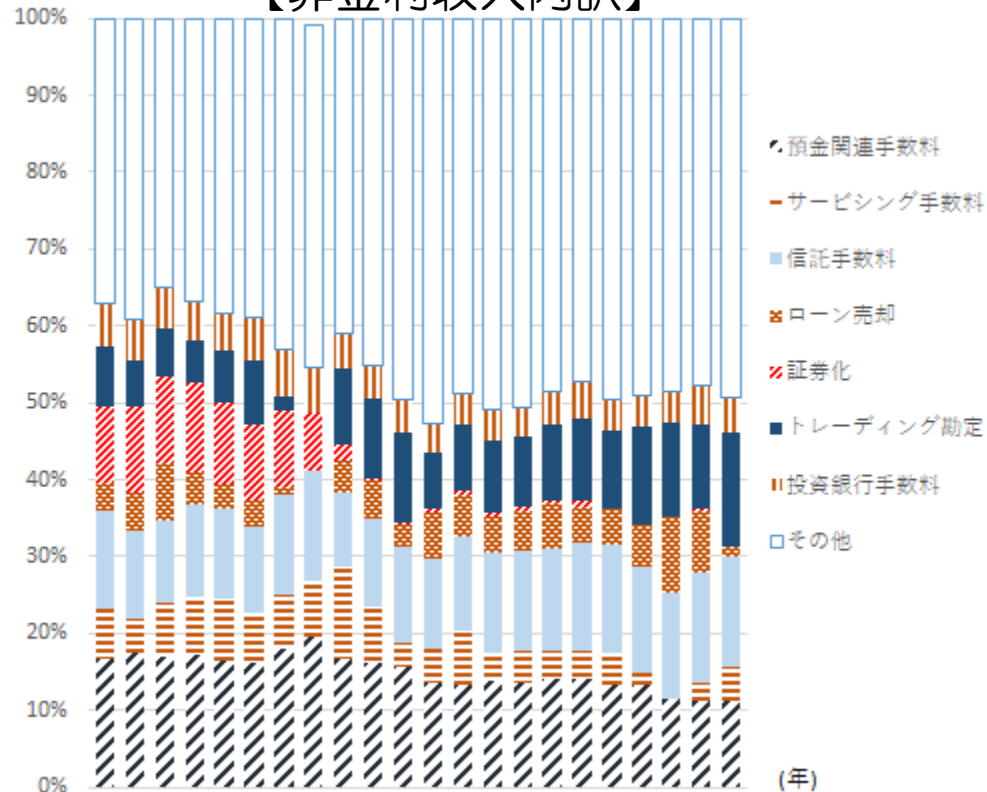


(注) 貸出種類/全貸出 (%)

(資料) FDIC, "Quarterly Banking Profile" より作成

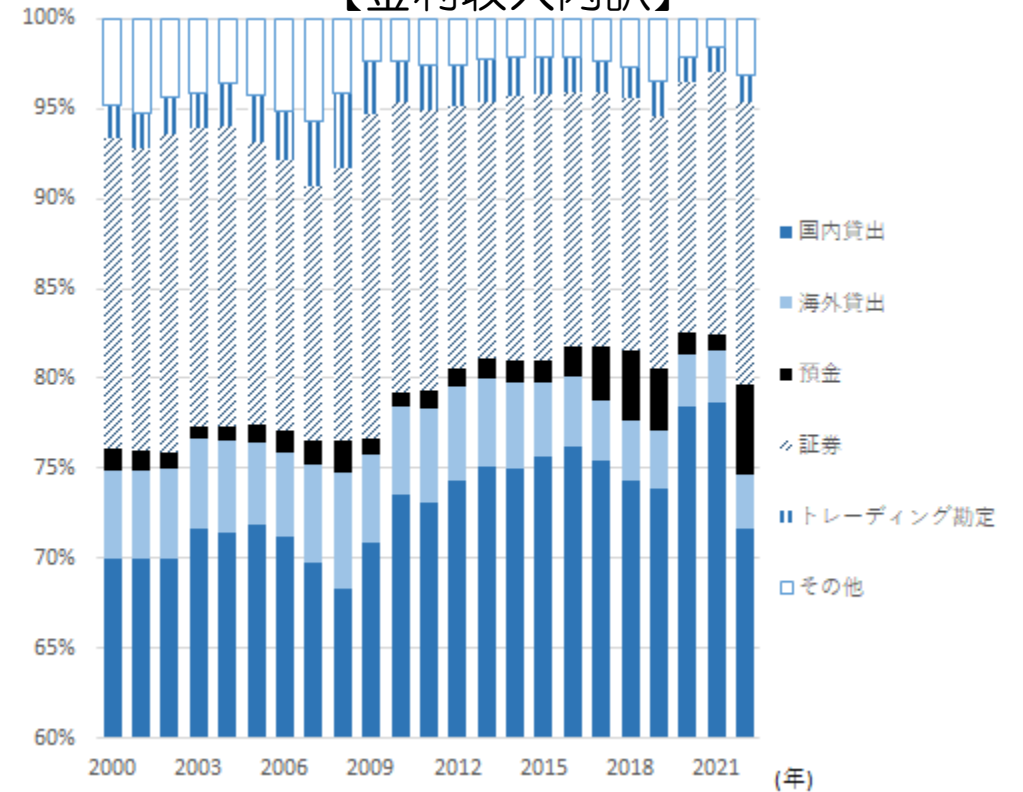
# 非金利収入、金利収入

【非金利収入内訳】



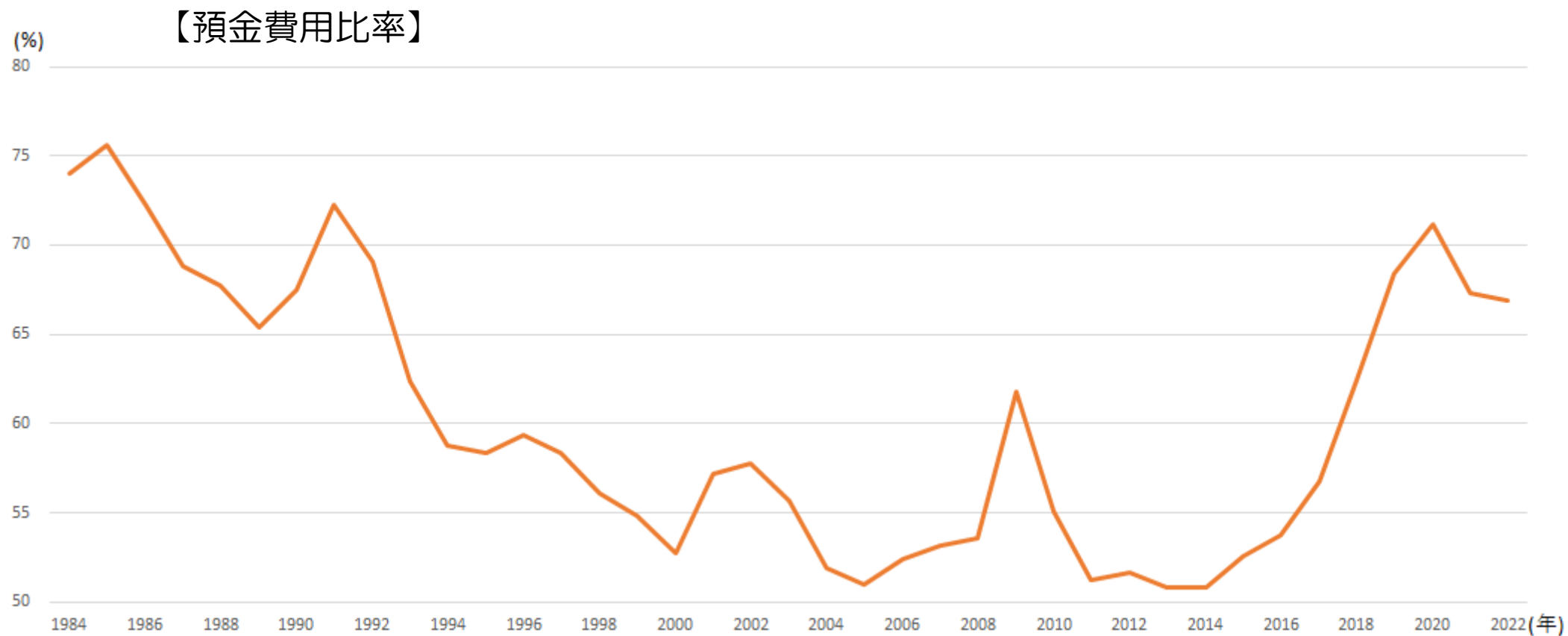
(資料) FDIC, "Quarterly Banking Profile" より作成

【金利収入内訳】



(資料) FDIC, "Quarterly Banking Profile" より作成

# 預金調達コストの上昇



(注) 預金費用/金利費用 (%)  
(資料) FDIC, "Quarterly Banking Profile" より作成

## 問題の背景



# 循環要因 vs 構造要因

## ■ 循環要因

- FRBの金融政策

  - QE： 「預貸率の低下」

  - テーパリング、利上げ： 「預金調達コストの上昇」

- 「非金利収入の低下」の循環要因は？

## ■ 構造要因

- 「預貸率の低下」は一貫

- 「非金利収入比率の低下」は一貫

- 「預金調達コストの上昇」は、循環要因（利上げ）のみの現象？

# インプリケーション

# インプリケーション

## ■ 米銀の構造問題

- 競争環境の激化

：既存のMMF等のノンバンクにくわえ、Tech企業（Fintech）

- 金融規制

## ■ 金融システムの潜在的リスク

- 資産側における、ハイリスク業務への傾倒

- 負債側における、資金調達構造の脆弱性（大口預金依存、コスト増）

## ■ とりわけ、中堅銀行以下への影響大

- 大手銀行は事業ポートフォリオ、資金調達構造が多様化・分散化

立命館大学 経済学部  
新形 敦

e-mail: [anr18159@fc.ritsumeai.ac.jp](mailto:anr18159@fc.ritsumeai.ac.jp)